

佐久市協働のまちづくり推進会議 会議記録（要旨）

日 時：令和元年6月3日（月）

13：30～16：00

場 所：生涯学習センター2階

野沢会館ホール

出席者：佐久市協働のまちづくり推進会議委員11名

支援金申請団体1団体

事務局（広報情報課職員・望月支所 総務税務係職員）5名

1 会長あいさつ

2 佐久市まちづくり活動支援金事業公開審査会

（1）申請団体代表者の紹介

（2）審査員の紹介

（3）審査に関する注意事項について

事務局より説明

各団体の事業の発表（プレゼンテーション）時間は7分間、その後、審査員からの質問時間を8分間設ける。

審査員1人当たりの平均点数が15点に満たない団体は、支援金の交付ができない。

（4）事業発表

団体による事業の発表、及び審査員からの質問。

ア JA佐久浅間助け合いの会「ほほえみ広場」（JA佐久浅間助け合いの会）

（5）結果発表及び講評

結果発表について 事務局より発表

・審査員1人当たりの平均点数は基準点数以上であった。

・推進会議より、上記団体の事業について、市へ推薦する。（会長）

（6）講評 会長より

今まで20年近くの実績がある団体なので、独自性はそのまま活かしていただきたい。さらに、他団体等との横の連携を持ちながら継続して事業を進めてほしい。

3 平成30年度佐久市の協働事業について（評価・意見）

委員：市は、市民と多くの協働事業を行っているようだが、協働事業によって市民に住みよいまちにすることが大切だと思う。そのためには、協働のまちづくり推進会議委員と佐久市市民活動サポートセンターと市が一体となって、協働を進めたい。3者のコミュニケーションが大切だし、地域の人たちのまちづくりに対する意識の醸成のために、情報の共有が必要だと思う。例えばそれぞれの事業で成果が出たときにそれを市民にも共有することでやりがいにつながると思う。

委員：協働事業は、佐久市をよくするための事業であるべき。市の税金を使うのだから、成果が上がるように進めてほしい。

委員：継続が大切だと思う。高齢化が進む中、地域単位でできることを、区長さんたちを巻き込んでやるのが大切。市全体で事業を進めることは難しいが、小規模で無理をせず、できる範囲で長く継続する事業が増えるのが大切だと思う。

委員：市民等と市の協働事業は数が多く、多岐に渡っていると感じた。内訳を見ると、「補助・助成」が多いようだが、金額面で見直しも必要では。「企画段階からの参画、政策提案」は、市民の意識が変わるきっかけになると思う。「アダプト制度」は、今後より多くの企業にかかわってもらえるよう期待する。

委員：協働事業がもっと一般市民にも浸透するようにアピールしたほうが良い。

委員：市民の意識醸成のためにも、協働事業を市民に周知することが必要だと考える。例えば「佐久市まちづくり活動支援金」は、有効的に使われるように制度について市民に知ってもらうことが大切。

委員：市民と行政が一体となるのが大切。協働で事業を進めるためには市民の意識醸成と市のバックアップが不可欠では。誰もが納得するような事業を進めていただきたい。

委員：協働のまちづくり推進会議の委員にも各事業を理解することが必要だと感じた。

委員：協働のまちづくり推進会議では今まで、佐久市まちづくり活動支援金と佐久市市民活動サポートセンターの審査・評価をメインにやってきた。「佐久市協働のまちづくり推進会議設置要綱」第2条には、「協働のまちづくりの施策の推進に関する事項」もこの推進会議での協議事項となっているが、佐久市全体の協働事業となると見えづらい部分もあると感じる。また、「協働のまちづくり」は、自治会である「区」が基本であると思う。区の活動の実態については、他の所管課が管理しているようだが、こちらにも情報が必要と感じる。「区」とかかわる事業がもっと増えることが望ましい。連携や周知を大切にしてほしい。

委員：移住者としては、「区」の必要性がよくわからない部分もある。

委員：佐久市では区と連携しないと各行事ができないことが多い。地域をまとめているのが「区」で、市道の整備も区長を通して市に依頼する。まちづくりにおいても、区と連携することがスムーズに事業を進めることにつながるのでは。

委員：今年度から佐久市市民活動サポートセンターの受託者が市外の団体に変わり、心配している部分もある。

委員：今年度、実際にサポートセンターとの関りがあったが、活性化していると感じた。今後
に期待したい。

委員：協働のまちづくりについて、本日、色々な意見を聞いた。今後も委員同士の意見交換を
大切にして、この推進会議を進めたい。

4 支援金事業の見直しについて（意見交換）

委員：補助率が1/2というのは、団体にとってハードルが高い。

委員：70%くらい補助しても良いのでは。

委員：支援金を申請したことのある団体から、申請書類の準備が煩雑だったと聞いた。最低限
の内容にすることも検討しては。

委員：審査する上で必要な項目もあると思うので、検討が必要だと思う。

委員：やはり、1/2の補助率は団体にとって補助が少ないと感じる。ただ、申請内容によって
は、支援金事業の成果があると言えるのか疑問なものもあるのは事実。

委員：最近では、若い世代のお金の使い方が変わってきている。子育てにもあまりお金がかから
ず、お金をなるべく使わない傾向があるため、社会でお金がまわらないという側面もあ
ると思う。支援金の内容で、「講師料」を申請してくる団体が多いが、団体は、参加者か
らしっかりと参加費を取って事業を行うことも大切だと思う。そうでないと、講座の内
容が参加者の身にならない。

委員：事業内容によっては、講師料の補助が不可欠なものもあるかもしれない。今後、支援金
の審査をするにあたって、他の委員と話し合いをして判断したいと感じた。

委員：支援金の審査時に、委員同士で相談する時間を設けてもよいのでは。

5 その他 事務局より

(1) 次回の推進会議について

次回の佐久市協働のまちづくり推進会議は7月から8月頃に開催予定。内容は、「佐久市
まちづくり活動支援金事業3次募集分の審査会」と「佐久市市民活動サポートセンターの
中間報告と意見交換会」。

6 閉会